

# 趣旨説明

## 性差研究に関する学術会議の取組み

性差に基づく科学技術イノベーションの検討小分科会  
委員長

渡辺美代子

# 学術会議での性差研究取組みの活動

**第23期** 2016年4月－2017年9月

**科学と社会委員会 Gender Summit 10 分科会**

Gender Summit 10の企画と運営について議論  
Gender Summit 10の共催

**第24期** 2018年5月－2020年9月

**科学者委員会男女共同参画分科会 Gender Summit 10 フォローアップ小分科会**

東京宣言（GS10のまとめ宣言）の周知と議論  
フォローアップシンポジウム3回の開催

**第25期** 2021年4月－2023年9月(予定)

**科学者委員会男女共同参画分科会 性差に基づく科学技術イノベーションの検討小分科会**

性差研究についての議論

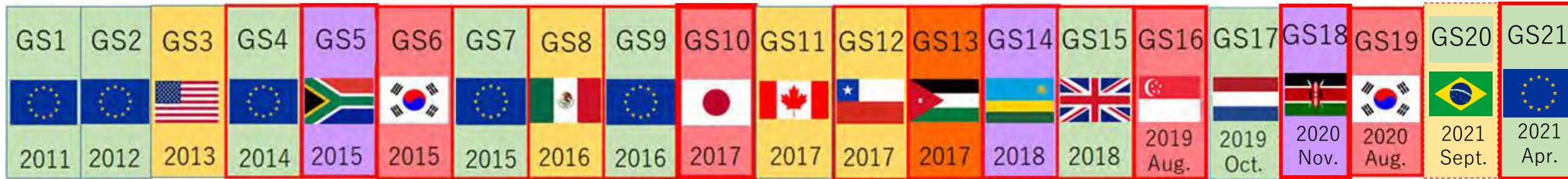
見解の作成・公表、学術フォーラムの開催 **本日**

# Gender Summitの歴史と展開

## Gender Summitの特徴

- ・ 性差を認識し、重要な要因と捉える
- ・ 科学技術からスタート
- ・ 多岐にわたる参加者  
→ 科学者（文理）、企業、政策決定者、...

Elizabeth Pollitzer  
(Portia,  
Founder of GS)



**EU's Horizon 2020(2014)**  
研究にジェンダーバランス考慮とジェンダー分析組込みを推奨

**EU's Horizon Europe(2021)**  
ジェンダーバランス、ジェンダー分析の提案書  
記載義務化・評価対象

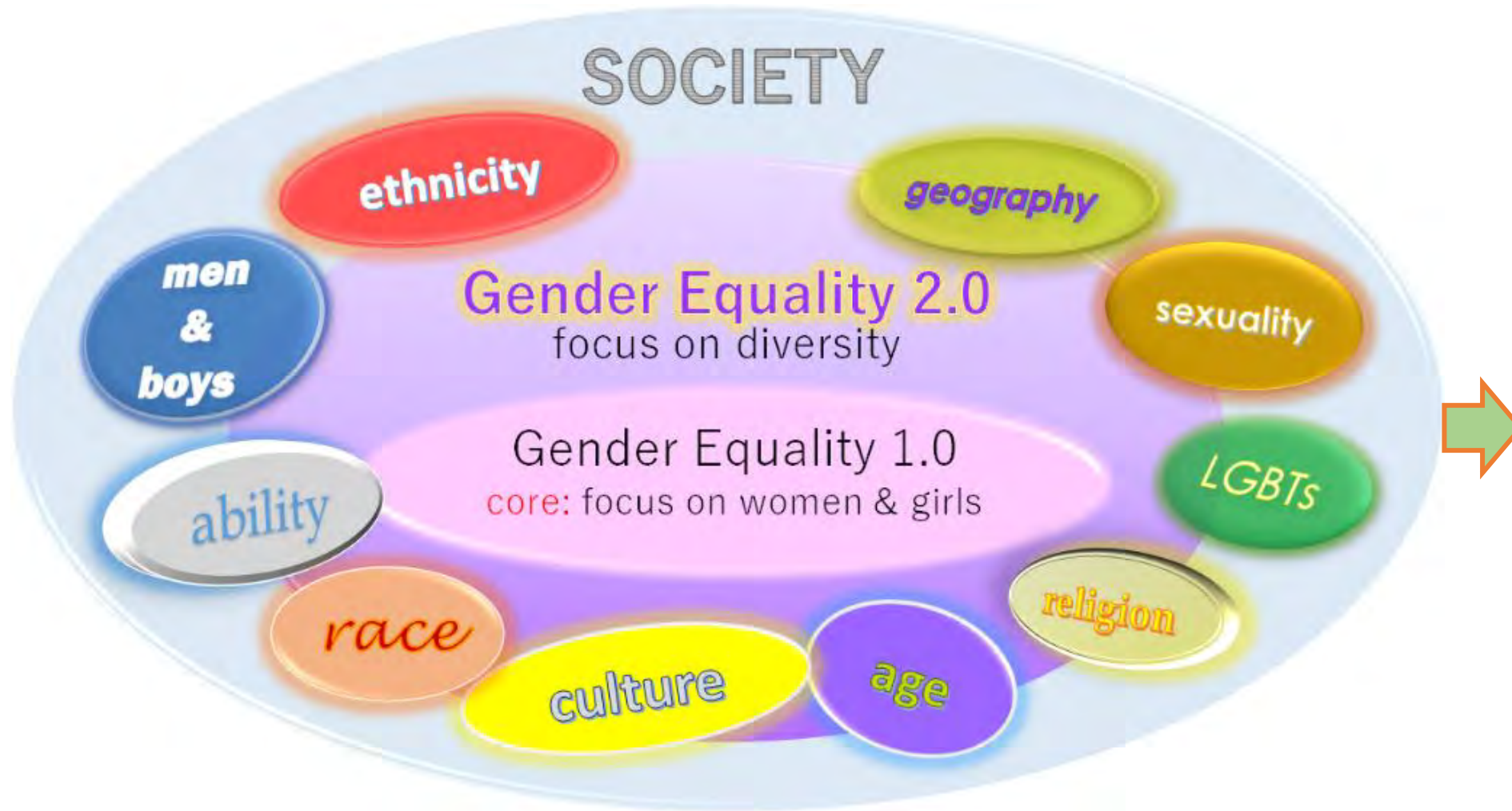
## Tokyo Recommendation

- 1) 性差研究を科学技術の主要因と捉え  
社会にイノベーションをもたらす
- 2) ジェンダー平等はSDGsすべてと結びつき  
実現を促す架け橋となる
- 3) 女性だけでなく、男性、民族、人種、文化  
等の関係性を考慮が必要である

学術会議  
Gender Summit 10分科会  
(2016-2017)

学術会議 男女共同参画分科会  
GS10フォローアップ小分科会  
(2018-2020)  
**性差に基づく科学技術イノベーション  
検討小分科会**  
(2021-2023)

# Gender Equality 2.0 based on Gender Equality 1.0



GS21(2021年4月)

## **Intersectionality :**

年齢、性別、宗教、出身、性的アイデンティティ、文化、健康状態、生活状況、社会的地位など、さまざまな側面が交差し、さまざまな機会と障壁をもたらすことを意味



# GS10 その後の展開



GS10での議論を共有し、その後の展開を確認、変化する課題を把握

## GS10 フォローアップシンポジウム 2018

2018年6月14日@学術会議講堂, 110人参加 **(男性: 22%)**

- ・大学,企業,学協会でGS10の議論をもとに展開、それぞれ独自の取組みを実施
- ・男女共同参画の取組みは一通りでないことを確認



## GS10 フォローアップシンポジウム 2019

2019年7月4日@JST, 160人参加 **(男性: 41%)**

- ・Gender Equality 2.0 がさまざまな方面で展開されていることを確認
- ・LGBTQ+の方が新たなダイバーシティの考えを持っていることを確認し、共有



## GS10 フォローアップシンポジウム 2020

2020年8月31日 オンライン開催, 290人参加  
**(男性: 43%, どちらでもない:3%)**

- ・「壁を越える」をテーマに、あらゆる壁を越えるためにジェンダー視点の必要性を確認
- ・若手研究者に焦点をあてて議論、ジェンダーと世代の壁を越える必要性を確認



# 性差に基づく科学技術イノベーションの検討小分科会

## 小分科会委員

- 大野由夏 北海道大学教授（第一部会員） 経済学
- 名越澄子 埼玉医科大学教授（第二部会員） 臨床医学（副委員長）
- 野尻美保子 高エネルギー加速器研究機構教授（第三部会員） 物理学
- 伊藤公雄 京都産業大学現代社会学部客員教授（連携会員） 社会学
- 上田修功 日本電信電話株式会社室長（連携会員） 情報学
- 河野銀子 山形大学教授（連携会員） 社会学（幹事）
- 高瀬堅吉 中央大学教授（連携会員） 心理学（幹事）
- 安田仁奈 東京大学教授（連携会員） 環境学
- 渡辺美代子 科学技術振興機構（連携会員） 総合工学（委員長）
- 能瀬さやか 東京大学特任助教（特任連携会員） 臨床医学

## これまでの議論

2021年4月から10回の小分科会で議論

話題提供：各委員

立花誠 大阪大学教授 性スペクトラム

小松浩子 日本赤十字九州国際看護大学学長（第二部会員）  
ケアの性差



## 見解の作成

小分科会議論をもとに小分科会と分科会で作成

表題：性差研究に基づく科学技術・イノベーションの推進

（学術会議男女共同参画分科会の意思の表出）

# 見解案の内容

## 背景と現状の問題点

1. 性別をめぐる科学的議論が多種多様
  - ・性別が科学にとって重要な要因であることが明確
  - ・科学的根拠としての性スペクトラム
2. 男性中心の社会構造から脱却できていない
3. 欧州中心に研究に性別を要因とする研究が活発

## 見解内容

1. 性差を考慮した研究開発の推進
  - ・AI, スポーツ、医学・医療、ケア、工学などさまざまな分野で、性差、ライフステージへの配慮が必要
  - ・公開の際には、解釈に十分な配慮が必要
2. 性別に関する科学的知見の周知
  - ・性スペクトラムに基づき性的少数者が自然であることの周知
  - ・セックス／ジェンダー／両者が関連する側面の理解が必要
3. 性別データの取得とジェンダー統計の充実
  - ・国際標準に合わせて性別によるさまざまなデータを一元管理できるようデータの収集と分析が必要
  - ・データ公開を進め、ジェンダー統計整備
4. ジェンダー平等の推進
  - ・1－3推進のためにも、ジェンダー平等を従来以上に推進することが必要

# 本日のプログラム



13:15-14:00 基調講演 Gendered Innovations

Londa Shiebinger (スタンフォード大学教授)

動画日本語字幕つき

14:00-14:20 講演 1 A I における公平性

上田修功 (日本学術会議連携会員、NTTコミュニケーション科学基礎研究所NTTフェロー)

14:20-14:40 講演 2 循環器系の性差と対応

下川宏明 (国際医療福祉大学 副大学院長)

14:40-15:00 講演 3 ジェンダー統計の必要性

河野銀子 (日本学術会議連携会員、山形大学教授)

15:00-15:20 ----- 休憩 ----- **質問票を回収いたします**

15:20-16:20 パネルディスカッション 性差研究はイノベーションを創り出すか

ファシリテーター：渡辺美代子 (日本学術会議連携会員、JSTシニアフェロー)

パネリスト：上記講師

高瀬堅吉 (日本学術会議連携会員、中央大学教授)

羽生祥子 (作家・メディアプロデューサー、日経xwoman 客員研究員)

コメンテーター：伊藤公雄 (日本学術会議連携会員、京都産業大学客員教授)

能瀬さやか (日本学術会議特任連携会員、東京大学医学部附属病院特任講師)

野尻美保子 (日本学術会議第三部会員、高エネルギー加速器研究機構教授)

16:20-16:30 閉会の挨拶 名越澄子 (日本学術会議第二部会員、埼玉医科大学教授)



# ジェンダー平等 3つの戦略的アプローチ

—Londa Shiebinger 講演より—

## 1. 数値の改善

科学や工学の分野で、女性や社会的地位の低い人々の数を増やすことに焦点  
参画について、男女のバランスが取れた研究チームを編成

## 2. 組織の改革

組織の構造改革を通してキャリアのジェンダー平等を推進  
大学・研究機関を改革し、誰もがキャリアを積み活躍できる機会を提供  
(育児休職、ワークライフバランス)

## 3. 知識の向上

科学、イノベーション、そして人類の知識の未来にとって最も重要

Gendered Innovations

密接に関係